

町行政連絡員連合会による義援金寄託 み さんの思いを被災地へ

町行政連絡員連合会は2月6日、能登半島地震の被災者を支援するための義援金を、日本赤十字社福島支部へ寄託しました。

この義援金は、各町内会において、町民の皆さんのご協力を得て取り組まれたもので、411,200円が寄託されました。当日は、佐藤久仁夫会長が同支部を訪問し、久保克昌事務局長へ目録を手渡しました。佐藤会長は「東日本大震災のとき、多くの人からご支援をいただいた。今は、我々が被災者の皆さんを支援するとき。一刻も早く平穏な日常を取り戻せることを願う」と話し、町民の思いを託しました。



▲久保事務局長（左）へ目録を手渡す佐藤会長（中央）と高橋町長（右）

避難 住民自治協議会防災研修 難生活への配慮のために

町住民自治協議会による防災研修が3月16日、イコーゼで行われ、60人が参加しました。今回は、災害時高齢者生活支援講習として、日本赤十字社より講師を招き、災害が高齢者に及ぼす影響や避難所生活における配慮について理解を深めました。参加者は、体を保温する「毛布を使ったガウン」、体の清潔を保つ「ホットタオル」やダンボールを使った「足湯」など、身近なものを利用した生活支援の実演のほか、ストレスを緩和するリラクゼーションマッサージやレクリエーションなどを体感し、災害への備えを新たにしました。



▲避難生活時に必要な配慮や生活支援の具体的な方法などを学ぶ参加者の皆さん

相 空家セミナー＆相談会 続で採めないために！

桑折まちづくりネット主催（町共催）のセミナー「相続で採めないために！土地・建物等の資産を守る「遺言」と「信託」のリアルな話」が2月3日、イコーゼで行われ、15人が参加しました。空き家をどうかしようと思ったときに、意外と障害になるのが「相続」の部分。そこで、相続を円滑に行うための遺言や信託の手続き方法・メリットなどについて、講師の司法書士と福島信用金庫のマネーアドバイザーから事例を交えたリアルな話を聞きました。参加者からは「大変参考になった」「さらに詳しく知りたい」との声が寄せられました。



▲この事業は、国土交通省令和5年度空き家対策モデル事業です

■改正内容

2030年度（令和12年度）までに削減するCO2削減量の目標値を引き上げ

【改正前の目標】

2030年度（令和12年度）までに、2013年度（平成25年度）と比べて26%削減する

★排出されるCO2の量で37,000トンを削減

【改正後の目標】

2030年度（令和12年度）までに、2013年度（平成25年度）と比べて50%削減する

★排出されるCO2の量で68,000トンを削減



◀計画の詳細は、町ホームページをご確認ください

持続可能な社会を目指して 町地域丸ごと省エネ計画改正

令和元年に策定した「桑折町地域まるごと省エネ計画（桑折町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」のこの計画は、町全体で地球温暖化対策や温室効果ガス排出削減の目標を定めたものです。この度、策定から約5年が経過したことや

国・県の温暖化対策の目標がより高水準になったことなどの社会情勢の変化に合わせて、同計画を改正しました。「住み続けたい 住みたいまち 桑折」の実現に向け、省エネ・温暖化対策とともに取り組んでいきたいと思います。

女性の社会参画を支えるために こおり子育てカフェ

町と福島信用金庫共催事業「こおり子育てカフェ」が2月23日、イコーゼで開かれ、子育てに奮闘中のパパも含む15人が参加しました。地域ぐるみ子育て研究所しゅふコミ代表の横尾恵美さんを講師に迎え、女性に負担が偏りがちな

子育てについて、実体験を交えた講演や悩みなどを話し合うグループワークが行われました。参加者は、女性の社会参画の推進には、男女や地域が支え合い子育てすることが重要であると学び、今後の育児の在り方を考える機会となりました。



▲「悩んでいるのは自分だけじゃない、安心できた」と、同じ悩みを持つ子育て仲間がいることを実感した参加者

広告

広告

広告